

「高知紀行(8)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

四国本土の宿毛市片島と離島の沖の島を結ぶ、宿毛市営の連絡船は、3か所の港に寄港する便が、一日に二便あります。

沖の島定期航路運航時刻表

	片島	母島	弘瀬	鵜来島
第一便	7:00 発	直航		着 7:50
	9:25 着	8:35	8:20	発
第二便	14:30 発	15:20	15:35	着 16:05
	16:55 着	直航		発

これが時刻表です。本土から島に行く場合も、島から本土に行く場合も、日帰りで往復できるダイヤになっています。しかし、たとえば1便で島に渡って、天候が悪化した場合、2便が欠航すると島に1泊することになってしまいます。幸いこの日は1便も2便も時刻表通りに運行してくれました。



最初に寄港するのは「鵜来島(うぐるしま)」です。周囲は7km 足らず、人口は20人程度、小中学校も休校中、自動車も商店もないそうです。しかし地質的には中生代白亜紀(約1億年前)の堆積岩で、大変興味深いです。アンモナイトの時代なので、化石が見られるかも知れません。次回はゆっくり見たいです。



島は断崖に囲まれていて、港の周辺にある集落以外には人は住んでいません。自動車の通れる道も1本もないそうです。



断崖は浸食が進み、尖峰化している岩も見られます。この尖峰の岩石の中にも白亜紀の化石があるかも知れません。



鵜来島をあとにした船は、沖の島へと急ぎます。このあたりは波が荒いことが多いそうですが、この日は池のように静かで、ほとんど揺れませんでした。



10分も航行すると、目的地の「沖の島」に近づいてきます。やはり少し波が出てきました。



沖の島には3つの港があり、この連絡船はそのうち2か所に寄港します。まず南側の「弘瀬港（ひろせこう）」に寄ります。小さな集落ですが、簡易郵便局もあります。



沖の島は主に3種類の岩相で構成されています。島の南西側は、付加体堆積岩の地層で、波浪による浸食で海食崖を形成しています。何か所か洞窟（海食洞）も見られますが、容易には近づけないでしょう。



沖には「姫島」が見えます。この島は現在無人島で、釣船が往来しているそうです。



堆積岩（新生代古第三紀）の白い岩石が海上に突き出したところが「白岩鼻（岬）」です。岬の崖の上には、神社と展望台があります。



白岩鼻を回り込むと、海岸の岩石の色が明らかに変化します。これは新生代新第三期の花崗岩です。赤く見えるのは表面が風化変質しているからでしょう。